

令和6年11月25日

観光マーケティングの実験室 TABIMAE LABO

長崎市内でリアルな“域外の声”をシェア。

新たな視点で、長崎観光に求められていることを知る

一般社団法人長崎国際観光コンベンション協会（会長：村木昭一郎）は、株式会社ガルテン（NEXTWEEKEND）との共催により、観光マーケティングの実験室とも言える2つのイベントを実施しました。

9月7日（土）には「TABIMAE LABO長崎編」として、長崎を訪れたことがない都内近郊在住女性30名を対象に長崎の魅力を探求し、彼女たちのリアルな「域外の声」を収集。その後、10月25日（金）には地元観光事業者を招いて、収集した知見を共有するトークショーを開催し、地域の観光に新たな視点をもたらしました。この取り組みは、長崎の観光資源を再発見することに繋がり、観光者・地元観光事業者の双方にとって「旅前」での関係構築の重要性を学び、今必要な観光事業を見出す機会となりました。

1.長崎の魅力を探る「TABIMAE LABO」

「旅前」に知識を深めることで景色が変わる、新しい観光アプローチ

9月7日（土）に東京都渋谷区で開催した「TABIMAE LABO」では、まだ長崎を旅したことがない女性を対象に、理想の旅を思い描き、長崎でそれをどう実現できるかを考えるワークショップが行われました。長崎にどんな魅力があるのか、どのような旅が叶うのかといった「域外からのリアルな声」を掘り起こし、参加者は自身が本当に欲していた理想の暮らし方を、長崎を通じてアウトプットすることで、まだ踏み入れたことがない長崎の地を自分ごとにし、「次の旅の候補地」とさせることが叶いました。



2.域外の視点を地域へ共有、地元の新たな価値を発見

「都内生活者の本音から探る、観光コンテンツ開発トークイベント」を開催

10月25日（金）にJUNE COFFEE X FAV LUX長崎で開催したトークショーでは、地域の観光事業者が集まり、9月のTABIMAE LABOで得られた「域外の視点」を共有することをメインに、トークショーを展開しました。ゲストには、kumam（くむ・あむ）編集者/一般社団法人山と海の郷さいかい代表理事はしもとゆうきさん、地方活性・地方創生型インフルエンサー美咲さん、株式会社ガルテン代表/ライフスタイルプロデューサー村上萌さんが登壇しました。観光者が意外にも地域の日常や暮らしを求めていることや、日常の中にこそ観光の魅力が眠っているという新たな視点を参加者とともに考察しました。観光事業者が自身の「当たり前」に改めて価値を見出し、地域愛を持って情報発信する意識を深められたことが、トークショー後のアウトプットセッションを通じてわかりました。



3.今後の観光に向けた課題と展望

域内・域外を繋ぐ観光マーケティングで、長崎人を増やす

今回のTABIMAE LABO施策は、地域と観光者を繋ぐ観光マーケティングの実験室として、地域の観光発展と地元愛の醸成に大きな一歩を踏み出しました。今後、観光事業者同士が連携し、観光者の視点を取り入れた情報発信や地域の魅力の再発見を続けていくことで、地元事業者に改めて誇りを持っていただくとともに、持続可能な観光振興、また、何度でも訪れたいと思える長崎を目指します。

このリリースに関するお問い合わせ

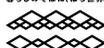
一般社団法人
長崎国際観光コンベンション協会
担当 森永

〒850-0862 長崎市出島町1-1 出島ワーフ2階
TEL.095-823-7423
FAX.095-824-9128

<https://nagasaki-visit.or.jp>



暮らしのそばに、ほら世界。



NAGASAKI